

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム稲沢重本の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県稲沢市
記入者名 (管理者)	西木みち子 0587-22-3211
記入日	平成 19年 9 月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	H19.3月～地域推進活動開始 穏やかで静かな介護を理念のもと、自然に地域の方々とのふれあう機会をつくっています。	○	身体的な自立、共生、友愛の姿を示して行きたい。地域の中でゴミ出しにゴミ0運動、野菜作り等で共生。地域の祭り、グループホームの祭りの参加で友愛と理念を実現していただきたいと思っています。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は理念を共有し、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいます。	○	定期的に勉強会を行い、テーマを取り上げ管理者、職員共に話し合い、実践に役立てていきたいです。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域推進活動にて、グループホームの理念取り組み、季節行事等を伝えています。家族の方も参加していただき場所を深めています。	○	利用者様との戸外散歩中、地域の方とふれ合う機会をつくる。地域の集まりやイベントの参加の他、折に触れて実践を伝えていきます。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	利用者様との散歩中等に積極的に挨拶、声かけを行なっています。	○	地域の人に会ったら挨拶をし、声かけ受け込む。野菜作りのアドバイス、ボランティアの提供を受けています。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域のまつり、ゴミ0運動への参加により、コミュニケーションを図っています。	○	地域での行動に積極的に参加、地域との交流を図る。地区の幼児、小学生、中学生の交流を今後、広げていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	H19.7～ ホーム横に多目的に利用する土地・畑を確保。近辺の方々の協力を得、農作業をすすめている。	○	地域の方、高齢者の方が気軽に寄っていかれる場、雰囲気作りを行なっていきたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護の現場、努力する面等を再確認自己啓発にしています。	○	評価のねらい、活用方法を継続的に取り組んでいきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19.3～ 運営推進会議開始 内容・場所・進行方法、地区長他代表の方々と相談をしながら始めました。	○	運営推進会議で、自己評価の内容を説明する。現在、取り組んでいる内容を報告し、意見をもらい役立てていきたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当を窓口にし、関係作りを保ち、市町村との連携に取り組んでいます。	○	市役所担当者に対して実情、ケアサービスの取り組みを積極的に紹介、伝えていきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族、相談役、医療と連携 活用がスムーズにできるよう支援しています。	○	より良い運営方法について、示唆を受けたり研修に参加、学び、助言、活用できるよう努力していきたいです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	居室鍵を開けて、見守りを重視に心掛けています。	○	高齢者虐待防止法に関する理解・遵守に向け、サービスの質の向上に努めます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	館長・ケアマネージャー・計画作成者同席、ご家族へ十分に説明を行なっています。	○ 重度化や看取りについての対応についてご家族の意向、対応方針を相談していきたくと思っています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム各ユニット毎に意見書記入箱を設けています。	○ 利用者・家族の言葉、態度からその思いを察する努力をしていきたいです。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回館長より行事の案内、日々の様子、連絡事項を伝えています。訪問時に行事、日常の写真を見ていただいています。その際、金銭出納帳にサインをしていただいています。	○ 定期的にご家族へお便りを発行し、面会時にケアプランの見直しがある場合、状態報告し、要望等確認を深めていきたいです。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月1回のお便り、面会時で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意しています	○ 出された意見、要望は毎月1回のミーティングにて話し合い、反映させていきたいです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心掛けているが、把握しきれていない可能性があります。	○ ミーティング・勉強会・個人面談等で意見を提案し、それを聞き、反映させていきたくと思っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況により全体ミーティングを行い、必要に応じて柔軟に職員の配置を考える。管理者は状況に応じて利用者の状態の変化に応じて体制をとっている。	○ 余裕をもった人員確保をし、利用者の状況変化や職員の急病、急用等に速やかに対応できるように勤務調整に努めます。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職前に各階ミーティングを行い、申し送り利用者様への配慮に努めています。	○ 異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしていきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に運営者より、研修レポート、指示提出、自主研修などがあり実施しています。</p>	<p>○</p> <p>研修会参加、自主研修内容を全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っていきたいです。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市役所主催の研修会に参加しています。</p>	<p>○</p> <p>同業者の施設の訪問、見学等をして交流・学習をしていきたいです。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>利用者様にかかわっている時、他の職員が見守る。問題点にする場合は、後日ミーティングもしくは、さりげなく問題にふれるようにしています。</p>	<p>○</p> <p>利用者から離れて休憩時間の確保。サービス残業にならないように連携を整い、お互い、配慮を持って業務にあたっていきます。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に研修参加の促しがあり、テーマを取り上げ、レポート提出、運営者は職員個々の努力、実績、把握、向上心をもって働けるよう努めています。</p>	<p>○</p> <p>職能評価をし、向上心を盛り上げる。資格取得の為の支援を行なっています。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人にとって困っていること、不安をお聞きしています。</p>	<p>○</p> <p>事前面談で生活状態を把握をするよう本人の求めていることや不安を理解しようと工夫していきます。職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めます。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時、電話、応対時に気持ちをくみ取っています。</p>	<p>○</p> <p>これまでの家族の苦労や今までの経緯についてゆっくりお話を聞き、次の段階の相談につなげていきたいです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時、ご本人と家族からの要望等に何を求めているのか、見極めています。	○	地域のケアマネージャー等と接しながら必要に応じて、他のサービス機関につなげていけるようにしたいです。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にホームを見学してもらうことから始め、本人と家族にあった利用開始の調整を行い、安心して利用していただけよう支援しています。	○	馴染みの自宅で使用してある、タンス・衣類を持参。お話し、自然に馴染んでいただいきたいと思っています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から、生活の技、人と人とのやさしさを日常のかかわり、コミュニケーションの中でお互いが協働しながら和やかな生活ができるように配慮している。	○	本人の本来の個性や力、どう暮らしていきたいかの意向を知るため、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、日々の出来事の情報共有し、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで協力関係をもつことが多くなりました。	○	家族が参加できる企画行事を計画し、ホームに足を運んで頂ける機会を多くしていきたいと思っています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外食で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりして、よりよい関係に努めています。	○	少しの時間でも家族とのつながり、愛情を保てるように家族・本人に無理のない外出機会を維持していただいきたいです。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得、知人との交流が継続的な交流ができるように支援しています。	○	昔から利用していた美容院、墓参り、一人ひとりの生活習慣を尊重できるように支援して行きたいと思っています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎月のカンファレンスにより状態を把握、意見交換しより良い関わりを見出しています。	○	いろいろな作業を利用者と職員が一緒にし、利用者のそれぞれの特性をうまく活かしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時期を見て、電話にて挨拶をしホームの出来事等をお話している。気楽に来所していただけるように心がけています。	○	企画行事の時には案内状を出し、ご家族様が来やすい関係を作りたいです。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンス、日々の様子を観察にて把握に努めています。	○	意思疎通が困難な方には、家族・知人から情報を得、思い思いの暮らし方の希望・意向の把握に努めるようにしていきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、他入居後に日々の関わり、語り合いの中にて把握をしている。	○	本人のためのケアに活かすという目的とプライバシーへの配慮に努めるようにしていきたいです。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のカンファレンスにて、各職員が現状把握、申し送りを行っています。	○	生活リズムを理解し、行動や小さな動作からできないことをより出来ることに注目する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、意見交換・カンファレンスを行っています。	○	家族から得た情報、日々の様子で気付いたことを介護記録に記入し、カンファレンスの際に活かしたいです。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その時々気付いたこと、意見を最大限反映させながら臨機応変に介護計画を変更しています。	○	状態が変化した際には終了する前であっても検討・見直しを行っていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日勤・夜勤者が介護記録を行い、確認・対応に参加しています。勤務開始前には確認をしています。	○	個別記録を基に介護計画の見直し、認定有効期間の更新時等にカンファレンスを行い、よりよいケアに向けて行きたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院などの多岐の対応をしています。	○	医療連携体制を活かして、早期退院の支援、重度化した場合や終末期の入院の回避等考慮して行きたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事参加への呼びかけ、子供会、ボランティア団体の定期的な訪問があります。	○	運営推進会議を活かし、地域との交流の機会をふやしていきたいです。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっています。	○	他のサービス事業者との関わりを深めていきたいと思っています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通し、周辺情報や支援に関する情報交換をするようにしている。	○	今後活動を広めていく。協力関係を続けていきたいと思っています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月各利用者1回往診。ホームの協力医のほか、利用前のかかりつけ医でも医療が受けられるように話し合い、契約書に説明しています。	○	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた病院受診、適切な医療を受けられるように支援して行きます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医への受診、ご家族への面談に協力いただいています。	○	認知症の専門医、適切な指示や助言をしてもらい信頼関係を築きながら、相談に応じてもらいよりよく個別支援を行って行きたいです。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	勉強会を必要時に行っています。体調の変化にいち早く気づき、医師と連携がとれる体制を作っています。	○	看護職がない時は介護記録を基に確実に連携を行って行きたいです。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、回復状況等適切な退院支援を行っている。	○	管理者を通して入院時の情報交換をしており、安心して過ごせるように他の職員と速やかな連携を取れるようにしていきたいです。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族相談後、医師に方針を伝える。状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援しています。	○	本人、家族の意向を踏まえ、安心した最期を迎えられるように随時、意志を確認しながら取り組んでいきたいと思っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎月の往診時に状態を報告、利用者の状態にあった対応ができるようにしています。	○	家族と話し合い、利用者様が安心して終末期を過ごしていけるよう努めます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	カンファレンス、ミーティングを行い、ご家族の相談後実施、日常の記録を残し引き継げるようにしています。	○	ケアの工夫等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続性が損なわれないようにきめ細やかな連携に努めて行きたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人を尊重した言葉かけ、対応に努めています。	○ 人前であからさまな介護、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわない、さり気ない対応を徹底していきたいと思っています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その時の心理的・身体的状況に合わせ、納得のいく日々となるよう支援しています。	○ 職員からの押し付けの言葉にならないように利用者が自分で決める場面へと配慮して行きたいです。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションの中、希望を傾聴し支援している。利用者個人のリズムに合わせた対応を心がけている。	○ 個別の買物、外出支援を行い、その日その時の本人の気持ちを尊重していきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月毎に訪問理美容を活用しているが、本人・家族の要望のある場合は好みの店に誘っています。	○ 自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に節度をわきまえつつ、会話をはずませ支援を心がけていきたいです。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、盛り付けに声かけ、自主的に参加される方もあります。	○ 利用者と育てた畑の野菜を食材に取り入れ献立にも利用者の希望するものに沿ったものを取り入れて行きます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好物を理解しており本人の希望に応えられるように支援しています。	○ 現在、提供しない嗜好品(酒類)についても希望がある場合、他の利用者の影響を十分配慮し、自宅と同様に嗜好品を楽しめるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。可能な限りトイレで用を足す支援をしています。	○	あからさまな誘導ではなく、さりげない支援をしていく。オムツ使用の場合は、見直し・工夫して行きたいです。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	状態・希望を取り入れている。異性の職員が介護を行う場合、個々の利用者への配慮のもと入浴支援をしています。	○	入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等で無理強いをするのではなく、意向を第一にくつろいだ気分を大切にしていきたいです。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。ゆっくり休息がとれるように支援しています。	○	夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫していきます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。	○	散歩、体操が主な日課であり、近辺の催しごとの参加への機会をより多く取り入れる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行く時には本人が支払えるよう支援している。お金がある安心感や満足感に配慮している。(利用者全員ではなくできる人に対して)	○	買物レクリエーションを企画し、小額でも自分の財布からお金を出す、社会性を得て欲しいと思っています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々戸外散歩、ホーム畑にての外気浴を行い、活動に声かけ、希望に沿って支援しています。	○	小人数の外出以外に「みんなと一緒に」という企画、計画を職員のローテーションの工夫に取り組み多くしたいです。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人、ご家族の要望により連絡をとり、機会を作っています。	○	「行けない」とあきらめている利用者が「行ってみたい」と思えるような雰囲気作りをしたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望がある場合、年賀状を出したり、電話をかけるように支援しています。	○	利用者が積極的に外部の人たちとコミュニケーションが取りたいと思うような働きかけをしたいです。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	普段と変わらない、さり気ない対応にて居心地の良いムード作りに配慮しています。	○	きっかけ作りとして馴染みの人たちが参加できる企画・行事を実施したいです。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り共有認識をもって、自覚しない身体拘束が行われていないか意見交換している。	○	転倒防止の為、対策としてご家族の了解のもとベッド柵を使用。カンファレンス、ミーティングにて状態観察・工夫・勉強会にと取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日夜ともに居室に鍵をかけず、見守りを重視しています。	○	利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんだ対応に努めます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さり気ない雰囲気にて十分に様子を観察・見守りを行っています。	○	職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態を決め、細かくキャッチするよう努めて行きたいです。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人・家族了解のもと整理をし、消毒類はロッカー・倉庫保管し、危険な物は家族に持ち帰っていただいている。	○	利用者それぞれ危険要因の把握に努め、解決策をしっかり職員間で話し合っ行って行きたいです。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	不定期にミーティングを行い、知識を共有し確認に努めます。	○	日々のヒヤリハットを記録、職員の共有認識を図っていくことを徹底したいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、緊急時対応についてマニュアルを整備しています。	○	応急手当の勉強会(実技含む)を実施し体験、習得で全ての職員が対応できるようにしていきたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行っています。	○	今後なおいっそう働きかけに努めます。1回は勉強会、2回目は実施訓練と年2回の予定とします。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時の会話の中に取り入れ、理解・信頼を得るよう努めています。	○	車イスのベルト着用、玄関の施錠等のリスクについて個別的に、定期的な見直しを行って行きたいです。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常時、他の職員へ伝達、カルテ記入、対応策を職員間で共有し対応にあたっています。	○	一人ひとりの普段の様子をよく知り、変化・異常の兆候に気付いたら速やかに報告し、発見・対応の遅れがないようにしていきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全介助にての服薬、本人手渡し服薬かを職員間共有を徹底している。体調・表情の異変時、管理者に報告、早期発見に取り組んでいます。	○	今後も職員全体で処方内容、目的、副作用について理解を深め服薬の支援と症状の変化の確認等に努めていきたいです。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェック記入、確認、対応策、検討、運動(ラジオ・テレビ体操)などへの参加を促しています。	○	散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便ができるよう努めていきたいと思っています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中を他人に触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ声かけを行い、必要に応じて介助し、見守ったりしています。就寝前には義歯洗浄を行っています。	○	口腔ケアの重要性を全ての職員が理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身につけていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック、全員記入把握し、水分不足・体重増減に気をつけています。	○	安易に人工的な栄養補給に頼らないで運動量、食べるタイミング、介助方法を工夫して続けていきたいと思っています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの習慣・消毒を行って職員間にも徹底実施(インフルエンザの予防接種も)	○	感染症に対する知識を事業所内研修から学習し知識を高めるよう努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤時、まな板・ふきん類を毎日つけおき消毒を実施。	○	安全な食材を管理・提供ができるように衛生管理をしっかり行っていきたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランター、長椅子設置。語らいのきっかけ作りをしています。	○	近所の方々が気軽に立ち寄れるような雰囲気さをさらに工夫がしたいです。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と語らい季節感のある壁面飾りを行っています。	○	フロア内に個別にリラックスできる空間を作りたいと思っています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを静かに過ごせるよう配置・工夫しています。	○	利用者個々の状態の変化、利用者同士の関連性などに配慮した居場所づくり・環境づくりを心がけていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、後等に要望を取り入れ利用者の見慣れた物、使用されて馴染みの物にて安心して過ごしていただけるようにしています。	○	写真や使い慣れた日用品を持参され会話のきっかけを作り、居心地のよさを配慮していくことを続けていきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開放し、換気を行い、空気の入替えをし、におい・室温に気をつけています。	○	利用者の発汗の様子や冷えなどに調節していきたいです。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、居室内に手すり設置。手洗い場、各居室内は個人で自由に使用される。	○	今後ともさらに自立した生活が安全に送れるように工夫し、支援していきたいです。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメント・カンファレンスにより、ご本人を知り出来る力を活かしていただいています。	○	ご本人を知り、気持ちの理解を深めより良い環境を作っていきたいと思っています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	H. 19. 7月からホーム横の空き地で畑を作り、農作業、レクリエーションの場としています。	○	車イスの方もホーム横の畑、空き地場所にて安全に外の空気・景色を楽しんでいただくよう有効な利用を企画・工夫をしていきたいと思っています。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現利用者様が入居から日々過ぎ、心身ともに安定が見られます。のどかで温かい雰囲気を保ち、来訪者の方々と挨拶をかわす機会が多い。このグループホームのメリットを活かし、今後も利用者様・職員共に無理のないご本人での生活を送っていただくよう努めてまいります。